

LLPを用いた単身者の団地シェア居住研究

－ 単身者に安価・良質・安心の住まいを提供しつつ、団地再生をはかる －

2006.7 小林研究室

研究の目的

- ①単身者に良質かつ安心できる住まい安い家賃で提供する。
- ②高齢化や空家に悩む千葉市郊外の住宅団地の活性化に貢献する。
- ③新しいコミュニティ・ビジネスモデル（有限責任事業組合の活用）を開発する。

研究の概要

千葉大学の近くにある分譲集合住宅団地の住戸を借り上げ、大学生向けのシェア住宅（各室を個室とし台所や風呂を共用する住宅）として提供する。借り上げる事業主体として、専門家（大学教員）、団地住民（又は管理組合）、リフォーム会社、（大学生協）等による有限責任事業組合（LLP）を新しく構成する。また1年間、モニター居住者による居住実験を行う。4ヶ月程度で部屋のローテーションを行い各部屋の居住性を比較評価、及びシェア居住ルールの確立を目指す。その成果及びLLPの研究成果を踏まえて、本格的なコミュニティビジネスモデルを構築し社会に向けて提案する。（ハウジング&コミュニティ財団のLLP研究助成により実施）



千葉市の郊外団地



シェア居住を実施している住戸（3DK）

